早稲田大学理工学部　昭和43年3月15日発行

第2号　資源工学会々報

《年よりの冷や水》
ー新卒業生にあたえるー

岩沢　栄

〔筆者略歴〕

昭和7年　早大理工学部採鉱冶金学科卒
　　直ちに宇部興産㈱入社
昭和25年　工学博士
〃　30年　取締役宇部鉱業所長
〃　38年　取締役在任のまま成和土木㈱取締役社長を兼任、同年11月より同社長専任、現在に至る。

先輩であるから資源工学会誌で、何か言え、と伏見先生からの命を受けたが、さて困りである。先輩とは諸君より一足さきに生を受けたので、自然に諸君よりもっと前に学校を卒業した輩の総称であってみれば、下手な昔話が自慢話に聞きとられたり、あいつの自己弁護だ、なんかと誤認され、「明治は遠くなりにけり」そんなたわごとなんか聞かれるかい老兵よ早く消えろ、といった調子で、酷評されるのがおちであることを知っているから、今更説教めいたことを申上げるつもりはさらさらもちあわせない。

老人なるが故に三文の光がある。若さに燃えるエリート諸君でも、老人の域に達して初めて得られる光を老人だけがもっている。いうならば人生経験という四字である。若い諸君も一年経てば、一つ年をとったという、老人も同様に一つしか年をとらない。科学の進歩の速度がどんなにはやくなっても、年令ギャップは常に一定不変。いくら研究が足りても、追いつくことも追い越すことも出来ない。諸君も苦しみながら、成長する。老人ものんべんだらりと、無為に年を重ねたのではない。であってみれば御同様に、努力、苦しみ、研鑽の積み重ねで成人しつつあり、成長しているといわれる。

諸君は若いのび盛り、老人はのびどまり、終点が近いことも事実であるが、諸君と同条件に成長しつつあるのだから積み重ねた経験の量には当然諸君も追いつけない筈である。従って経験に基づく処世訓丈は老兵のみが、胸を張って言い得る三文の光である。先輩という意味を老人、老兵、と読まないで、経験者は語る、と解釈してお聞き願いたい。

1. まず健康

老人病発掘人間ドックではまず遅い。学問も研究もよい。ベターハーフよし、金も必要だが「命あってのものだね」の古語をとり、健康はありとあるすべてに優先する。全条件が満されれることを人間だれでも望むが、到底そうはさせない、と神様もおっしゃる（神様なんかは古い言葉である。科学が如何に進歩しても生命の問題は片附かない。人体修理が可能であっても延命はおぼつかない。天命を全うさせたが究極であり、そうだといった考えから敢えて神様と言う）。

自分は現時点ですばらしく健康にめぐまれている。健康であったことが人生を素晴しいものにしてくれたことに、感謝している。酒も飲んだし、飲んでいる煙草もやめない、お菓子もたべる。世の中に、ありとしあるものをなんでもやった。全く悔いなしである。従って諸君に其の害をとき、酒をたしなむな、煙草は害にはなっても、薬にはならないなんか言いだす心算なんか毛頭ない。人各々身体には特質があり、自分の身体は自分が最もよく知っている筈。人間のすむ社会にありとしあるもの、即ちマージャンよし、ゴルフよし、

全て必要であって、よしと肯定するから、不必要だ悪だ、と非難したり、否定はしないが適度でなく度をすごし、凝りすぎたことによるあまりに、多い失敗者を此の眼で見てきた経験者である。酒にも、百薬の長、気違い水の古語がある。身体に似合った適量は、朝によし、昼によし、晩によし、の意味である。

人間各々酒袋をもっている。大袋の所有者でのその範囲内でとめると百薬の長である。小袋しかもたない輩が袋にあふれるほどつぎ込んだのでは、よっぱらい、「気違い水」を飲んだことになる。「過ぎたるは及ばざるが如し」である。多量に飲める人は程度内で多飲しなさい。量の大小は体質による、体質を見極めて、百薬の長たる酒を飲めと言いたいのである。

天与の身体は精密機械である。精密機械は精密機械らしく扱うことが条件。保全管理を常に怠って、そのまま使い古したり、用法を間違えると全く修理不能となる場合が多い。がたのきた部品と取り替えても歯車のかみ合せがうまく行かないからである。

若さにまかせての健康管理では遅きに失する。栓抜き替りに歯を使い、ラッパ飲みなんかは勇ましいが、入れ歯が一枚ふえて「あの時」を思い出すのでは遅きに失する。人生の総和は等しいと思う。短命では総和は少さくなり、等しくならない。死んではおしまい、長命であることに意義がある。先ず健康であれ。

2. 問題点の発見があって進歩がある

なんでも良く出来ている。こんなものかと問題点所在不明のまゝ慢然と見過されている事態が世の中に余りに多い。私はわからんということがわかれば問題は解決出来たも同然と説いている。これはおかしいといった問題点が発見出来れば、創意をこらして工夫改善することが出来る、問題点が見つかればあゝやって見よう、こんなにして見たら、と、とめどなく創意が湧くものである。慢然とでなく問題点を開発してやろうと、常に意識して行動すれば案外こんな意識が固定化され慣習ともなる。こうなれば常に考える精神状態が生れると経験している。

昔からやっているしきたりだ、だから間違っていないと考える前にもう一回これでよいか、と見方、考え方をチェックする慣習が身についてこそ進歩の主導権をにぎる人生をあゆみ得ると考えている。

科学進歩の主導権は人間様であって機械ではない。電子計算機を作るのも人、使うのも人である。

3. 「やったるぜ」の気力

諸君が資源工学科で技を学びみがいたことは知っている、成績に上下のあることも知っている。頭のよし悪しもあろう。ガリ勉に終始した人も、遊びすぎた人もいる筈だが、人生は長い。学歴だけで、成績だけで一生を保障する社会はない。

学歴重点主義の官界ならいざ知らず、民間社界では学力のみを尊重するといっても過言ではない。究極は一生中の努力こそが一生を支配することになる。こんな社会で人並みに仕事をやったのでは人並みの進歩しかないから他に抜きんでる機会がないことは当然である。

他人以上に努力を積み重ねた人が勝である。努力こそ機会均等に人を追い抜き追い越し得る人間様に与えられた特権である。この特権を捨てることなく駆使してこそ人生に生甲斐あり、と割切る精神こそ人生を生き抜くこつではないか。自分はよく出来ると売ったって、買手は他人様である。売る必要更になし。「「やったるぜ」を地で行く気概こそ買って貰える成功への早道ではないか。

4. 誰にも負けない特技をもってやろうと決意する気がまえ

学卒者は一般理論に関する限り参考書をひもとけば優劣はない。勉強はしていることを知っている。勿論これも駆使することは必要で

あるが、このことは当然だれにでもやれる。従ってこれ丈ではあまり光らないが、更にみがいて才能を発揮し、一般技術中から選別した特定の技術を特技としてもつ人生を勝ちとってもらいたいと願う。しかし特技丈ではかたわ、ちんばになりかねない。彼は何でも出来る、といった一般技術も必要である。何でも間に合うが、これ丈は彼の特技中の特技だ、ほかのだれにも間に合わないといった存在であって貰いたいと願う。言いかえれば、あの問題については俺様がおらざれば、といった存在であって貰いたいと念願する。

特技は一夜にしては出来あがらない。職をきめた当初からこのことを決意しないと、途中からでは遅きにすぎ未完成で終る。社会が学校・研究所と異る所似である。就職後は出来る丈早い時期に終生の特技中の特技たらしめる目標を発見決定して、彼様にあらざれば、といった特質ある一面も兼ね備えたる人生を完成して貰いたいと願う。

以上のべて

年よりの冷や水という

◇ 新卒業生諸君に一言 ◇

祝卒業。しかし一言云い忘れた事がある。勿論、座右の銘とせよ、などと大袈裟なことを云うつもりは毛頭ない。小ウルサイお説教が又始まった、と聞き流して呉れ給え。

むしろ、この4年間にすべてを云いつくせなかった事深くお詫びする次第である。唯、願わくば、諸君等の将来に輝やかしき栄光のあらんことを、

BON VOYAGE !!

井上　勇　（教授）

君たちの学生生活とあの大騒動を切り離しては考えられない。あの中で君等は成長し、幅を広げ、多くのものを学び取ったと思う。その中でも重要な一つは、我々に関りの大きい問題には正解というような割切った答はないことを覚ったことではないだろうか。

このことは卒業論文に苦闘した諸君には素直に判って貰えると思う。一つ一つ小さな合理性を積み上げて行くうちに、いつか広い展望が拓かれ、大きな世界が拡がって来る。そんな形で進んで行くものこそ本当に重大な問題なのである。

我々の取り組むべき課題の重さと深さを心に銘じて巣立って行ってほしい。つまらない妥協や身勝手な挫折感や性急な解決は何ものも生み出さない。個々の精進を望み、身心の健康を切に祈る。

田中正男　（教授）

わかっているようで案外わかっていないのが自分自身の価値でないでしょうか。まず自分の価値を再検討し、自分自身をはっきり把握すること。これによってはじめて社会に出て責任ある行動がとれると思います。

現代は情報の時代とも云われ、その蒐集、整理が発達した時代ですが、まず己を知り次に全ゆる方面から情報を集めて他を知ること、これが世に克つ一つの手段かと考えます。

明治100年の記念すべき年に卒業する諸君は欧米の文化に追随した明治、大正時代から日本独自の文明を創造すべき時代の責任を負わされていると思います。大学で学びとった批判精神を基として新日本創造のために大いに頑張って下さい。諸君の前には輝ける21世紀が待っているのですから。

中野　実　（教授）

3月になると必ず「別れの日」がやってくる。私にとって37回目になる。しかし、この別れの日は輝かしい別れの日である。かつては鉱山にしか行かれなかった卒業生も、現在は巾広く各方面に活躍しており、諸君はその最新鋭部隊であるからである。

いま、世界は経済成長がめざましく、人口の伸びも大きい。これは、資源の消耗が甚だしいということである。西歴2000年に 入ったとき、人々は資源の重要性を今更の如く痛感し、もっと有効に使うべきであったと反省するにちがいない。

それと共に、その頃までに探査、開発、処理の技術が高度に発達していないと、人類は1000年位昔の まづしい生活に逆もどりするおそれがある。人類の将来を考えるとき、資源関係技術者の責任は重大である。卒業生諸君、資源の重要性は今後ますます大きくなる。卒業してもこれを忘れずに大いに活動して下さい。

萩原義一（教授）

世の中は今「実力主義」の時代に入りつゝあるという。猫も杓子も大学. 大学といっている現在では「学歴尊重」などといっていられないということかも知れない。学校を出る多くの人達が"かっこいい"サラリーマンを希望し、型にはまった一生を送ろうとしている。野球の三原監督が大学出の息子さんを敢て天ぷら屋さんにしたという話が私は大好きである。彼は恐らく、息子さんが平均的サラリーマンになり、特徴のない人間に堕することを嫌ったのだと思う。

私が諸兄に餞したいのは、この特徴のある人間になってほしいということである。「あの男にしか出来ない」といわれる何かを持ってほしいということである。最後に私の大好きな句をお贈りしよう。

親竹にまさりて伸びよ今年竹

どうか健康には十分注意されて、悔のない活躍をされることを心から念願する。

原田種臣（教授）

新卒業生諸君おめでとう。諸君が早稲田大学の卒業生として社会に身を置かれるに際し、早稲田の校風について再吟味してみることは無意味でないと思われます。

早稲田大学の校風を支える重要な要素として、「野党精神」または「在野精神」ということが謳われています。これは明治１５年の創立当初から何年か以後にかけて、言葉どおりの意味のままで十分に意義があったと理解されます。ところで今日の社会において、野党精神とは一体何でしょう。民主的方法で選ばれた政体を、イデオロギーを楯にとって１から１０まで反対することでしょうか。民主的に運営される一つの事業体の一員として、組織の上層の人たちを敵と仮想し、絶えず反発することでしょうか。

野党精神を早稲田の誇るべき伝統として受けついでゆくためには、言葉のもつ意味も時代とともに脱皮されねばなりますまい。私はこの言葉を、心の中でこう定義しています。"イズムにとらわれない正義感と建設的な批判力に支えられた現状打開の精神"

伏見 弘（教授）

〃卒業される諸君 御芽出たう〃と心から御慶び申上げます。愈々学業を終って実社会に巣立つ時が来ました。その場が会社、研究所、公務員、大学院であろうとも今よりは人間として一層きびしい路であり、社会に対する責任を持った自主的な態度が期待されていることを忘れないでほしい。世に云う野党的早稲田精神を発揮して自分の力を再発見するように頼みます。たよりになるのは自分只一人の力です。気が合わぬからと云ってカッカッしたのではマイナスになるばかりで良く判断した行動をとることです。こまったらその時こそ教室の方々に相談するも良いでしょう。

当学科は世の流れと共に名称を変更して、その教科内容を充実することに努め、社会に答えられる卒業生を送り出さんと努力しています。新らしい背広、作業服姿で先輩の名に恥じない積極性のある若人として次の日本を伸ばすような気持で耐え、頑張ることを期待

し、望んで止みません。

山崎豊彦　（教授）

本年３月愈々卒業えと向われ、今度は実社会の１年生として再出発されることになった訳ですが、諸君の大学４年間は極めて多彩なものだったと思っています。その一つは何と云っても学費値上反対に端を発した学生運動で、教員も諸君も好むと好まざるとに拘らず非常に長時間、この問題で頭を悩ませてきました。そしてもう一つは、専門の課程で２年間、資源工学科の新カリキュラムで勉強された第２回生だということでしょう。

鉱山会社以外の職場で働かれる方々には、殆んど同じ名称学科の先輩がなく、それだけに諸君の活動が直截的に資源工学を代表するものとなるのです。又しばしば“資源工学科とは”という質問を受けることでしょうが、こんな時はどうか“現在の私の活動だ”と胸を張って云切って下さい。

科学や技術は常に過去の伝統を畑として新しい方法や発見を繰広げてゆくもので、ここには諸君の若い、斬新なエネルギーが必要であることは云うまでもありません。応用化学、機械工学とは違い、私共の対称は常に自然界の生のままの物質が出発点であり、これと対侍して自然の現象を適確に把握し、科学的に対処してゆくことが最も大切だと思われます。

最後に諸君の健康を祈り、資源工学会発展のためにも、卒業後の諸君の活躍を希望してやみません。

橋本文作　（助教授）

この度勉学の甲斐あってめでたく卒業される皆さんに祝意を表すると共に輝やける２１世紀への懸け橋となるべき重大さを認識して自重、努力されんことをお願いします。皆さんに望む点は多々ありますが、次の点は是非とも心得ておかれるよう切望致します。

1. 先輩には活淡なる敬意を表わすこと。そして先輩と呼ばれるようになったら先輩カゼを吹かさず、先輩ヅラをしないで後輩の面倒をみること。ただし職制上の地位には威厳を保て。

2. 立身出世を望むな。人の出世は運によることが大きく、特に日本の社会においてはいくら実力があっても出世しようとしてできるものではない。しかし社会という所はある地位につかなければ責任ある仕事ができない仕組になっている。この面からはある地位まではできるだけ速くなることが肝要である。そしてある地位についたらそれに相当する仕事がすぐできるように普段から努力して置く必要がある。

岩崎　孝　（助手）

「実験値が可成り正確に揃いました。結構です。」次の瞬間大向うからの声、「Ａ君にだってやれた位い簡単な実験ですからね。」

そしてその後は筋書き通り聴衆一同の爆笑で幕。 ― ２月某日、ある卒業論文発表会での１コマである。

聴衆一同の爆笑は恐らく「それ程ツマラナイ研究」という意味を、連鎖的に読み取った結果であったからと思われる。

高度の教育を受けた者は兎角物事を複雑化して考え、誰にもできる事は低級者の仕事とケイベツする傾向がある。然しエンヂニア第一の使命は、より多くの人がより手軽にかつ安全に使える物を造り出すことではないだろうか。

むづかしい理くつを誰にも判るように説明することができた時、その時彼は「高度の教育」を受けた人として扱われるだろう。「コロンブスのタマゴ」の古事を、もう一度想い起こして頂ければ幸である。

（謹告）会費は年間５００円です。なるべく振替（東京・143534・資源工学会）を御利用下さい。会費納入の方には、会員名簿（５～６月頃発行予定）をお送り致します。

おれも云わせて貰おう

という訳で、新卒業生諸君に“云いたい放題”を述べてもらいました。正直いって、卒業論文作成の時期以外、あまり学生諸君との接触がない現状ですので、これらの“発言”はまことに貴重な“声”ではないでしょうか。

浅原昭司（開発工学・東洋さく岩機販売）

彼は私に尋ねました。

「君も、もう卒業だなー。」

私は、力なく答えました。

「そうさ卒業さ、大学いや学校とおさらばさ。」

「お前、この四年間で何かしたか。」

「うん、そうさなー。何したっけな。たぶん何かしたろ。」

「ばかやろー。『何かしただろう?』だって。」

「そう怒るなよ。お前も考えてみろよ。お前が入学した頃をよ。あの頃お前は坊主刈だったな。何を話すにも自信たっぷりで、その実何もわかっちゃなかったぜ。だがよ、今は何事も一歩さがって余裕をもって話すようになったじゃないか。それに卒論だよ、あれ程多くの実験をして、それをまとめた上、少々あがっていたとはいえ、堂々と発表したじゃないか。少しは進歩したさ。」

彼も私も何かひっかかりのある納得できない会話であった。

大川直樹（選鉱工学）

旅と旅行とは異なる。旅するということは本来日常性から脱出し非日常性の中で自己を開放しようとする孤独な欲求から発したものであろう。が旅行にはどこまでも日常性が附きまとっている。小生、旅を愛好する。

この感じ方が質的に異なる明日の抱負なるものの基盤にあるようだ。集団から遊離した個人を社会はもはや期待しない。適応して生きていこうとするに内心の吐露に耳を傾けてはならないとするなら悲しいことだ。環境である自然と社会に順応しよう。順応体として自らを訓練するのでなく積極的に順応できる場を見出すべく努めよう。夢と理想は人真似でなく、亦、人様に諾すわけにもいかない。自己の生の一回性という厳粛なる事実の認識が、今後の道中に拍車をかけてくれることを確信したい。それにつけても「浮いたか瓢箪軽そに流れ行く、行先知らねどあの身になりたや」等、時に思う腑甲斐無い、今日の小生ではある。

坂本荘太郎（開発工学・国際航業）

お前はワセダキチガイだと言われながら早稲田に入った。しかし、ワセダマンはいなかった。当然かもしれない。くやしかった。そこで、がむしゃらにボートを漕いだ。想い出はボートしかない。苦しかった。しかし、人のいう精神力ができたとは思わない、土方と同じ肉体的忍耐力なら4年も費やす必要はない。ただ、1つのものに自分の持つ情熱のすべてを注ぎ込んだ充実と自信はある。

あと1カ月余りで社会へ出る。「ワセダのミノ」の下に隠れるつもりはない。俺にはやれる。なんでも来い。どっと来い。

きのうも飲み屋で聞いた。「このごろの早稲田はヤセタ」だと。いざワセダマン気合いを入れて、起とう。そして歌おう高らかに

都の西北　早稲田の杜に……

がんばろう

坂本　正（防災工学・旭化成）

新入生歓迎バスハイク、1年の春に参加したこの行事が私の大学生活の送り方を決めたといっても過言ではありません。先輩との最初の出会いだったのです。それ以来、資友会、資源工学会総会、理工展、研究室での茶飲み話などで、資源工学科がどのような科である

かが次第にわかってきました。そのため、4年間を通してあまり迷うことなく、マイペースで学生々活が送れました。

このように、自分のペースで過せたのは当学科の雰囲気と諸先生、諸先輩のお蔭だったと思います。たゞ一言、いわせていただければ、必修科目数が多いために、授業選択の自由があまりにも少ないことと、1年における資源工学概論を何らかの形でもっと充実できたら、ということです。理工展での粉塵爆発の実験は、バスハイクとともに、忘れ得ぬ想い出の1つになりました。

西田道夫　（探査工学・明治コンサルタント）

昭和39年入学、東京オリンピックの年でした。今年はメキシコです。グルノーブルでは惨敗し、インスブルックの決意は生かされませんでした。入学当時の決意も生かされませんでした。でも惨敗ではありません。卒業論文への強化策は見事に花開き、上位入賞はのがしましたが、自分のベストを出すことが出来たと思っています。

さて札幌となると、4年毎にかわる強化策に振りまわされる五輪選手では、とてもお先真暗です。でも我々は、変らぬ指導方進を基になされた4年間の強化策により、ある程度の自信もつき、又一層の責任を感じます。れれにより社会というオリンピックにおいて、好成績をあげるよう頑張って行く決意です。

今宮舜一　（応用地質学・三菱商事）

4年の春はあっという間に過ぎさってしまった。それは資源工学科という、今日では稀にみる小人数の学科からくる家庭的な雰囲気が我々に年月のたつのを忘れさせてしまったように思われる。このように恵まれた環境によって得たものは数多くあった。しかし大きな損失も少なくない。それはあまりにも自由な雰囲気によって各自が規律というものを忘れてしまっていることだ。言いかえれば、ごまかしが利きやすく通りやすい学科であるということ。

他人に対するごまかしは時には許せるだろう。しかしこうした習慣が、いつのまにか自分に食込んで来ているのには気がつかないものである。本人の問題であると言ってしまえばそれまでだが、我が資源工学科は、こういう習慣に落込みやすいムードがあり、しかもこのムードがいつの間にか家庭的ムードのある学科というように、あたかも我が学科の最大長所の如く考えられている。

雨戸を開ける際、最初の2,3枚をいいかげんにすると最後にきて結局始めからやり直さねばならない。後輩諸君、君達も今日までの生活を考え直して有意義な学生生活を送り、どこに出してもはずかしくない資源工学科の出身者となってもらいたい。

・あ・ら・かると・A　LA CARTE・

◇“学生との対話”といえば大袈裟ですが、本号の発行が丁度卒業期にあたりましたので、先輩、先生方と新卒業生諸君が、それぞれの立場から自由に語って貰おうと思い斯くの如き次第となりました。これからもこのような企画を、折にふれ取り上げてゆきたいと考えています。

◇特に岩沢先輩には、御多忙中にも拘らず、卒業生に対し有難いお言葉を賜わりました。厚く御礼申上げます。

◇第1号の「尋ね人」によって相当数の会員の状況が判明しました。御便りを寄せて頂いた会員諸氏に対し、改めて御礼申上げます。

◇したがって「第1号は貰わないのに、突然第2号をよこすとは、ケシカラン。」テナ事態も発生することと思いますが、ソノ辺は悪しからず御諒承下さい。

◇それにつけても、金、カネ、かね。誠に恐縮ですが、諸物価値上りにより、会報、名

簿等の作成費に四苦八苦しております。金金５００両、なにとぞ御喜捨の程を、切に御願い申上げます。

◇橋本助教授、昭和４３年４月付で「教授」に昇格、これで専任教員（専任講師以上）は全部「教授」となる訳です。オメデトウございました。

尋ね人

下記の方々（敬称略）の住所等、判りましたら至急　資源工学会編集部　までお知らせ下さい。
（ ）内は卒業年次　Ｔ＝大正　Ｓ＝昭和

〔た〕田島敏郎（Ｓ19）田島順隆（Ｓ40）田中信（Ｓ23専）田村栄一（T12）田村幸夫（Ｓ22専）高木武（Ｔ14）高橋厳（Ｓ22専）高見知幸（Ｓ28）武井徹（Ｓ29）谷口次郎（Ｓ17）玉置一夫（Ｓ30）

〔ち〕張曾鉞（Ｓ16）長茂（Ｓ22専）

〔と〕土居幸雄（Ｓ23専）戸川博俊（Ｓ23専）戸山哲（Ｓ22専）鳥居三矩（Ｓ38）

〔な〕中島幸作（Ｔ12）中島徳太郎（Ｔ12）中津允武（Ｓ19）中村繁男（Ｓ36）永井幹三（Ｓ19）永井一郎（Ｓ31）長沼生雄（Ｓ24専）成田与吉（Ｔ13）

〔に〕丹生谷俊（T8）新田旗一（Ｓ７）新村正信（Ｓ37）西川武雄（Ｔ13）西田茂次（Ｓ9）西村栄造（Ｓ26鉱）任続彬（Ｔ12）

〔ぬ・ね・の〕沼田辰治（Ｔ12）野根岸保博（Ｓ29）野口邦夫（Ｓ30）野田茂（Ｓ5）野々村和吉（Ｔ12）野本広（Ｓ23専）

〔は〕スフデイ・ハミド（Ｓ40）羽田野耕一（S40）橋本奥雄（Ｔ7）蓮見明（Ｓ23専）長谷川明蔵（Ｔ11）長谷場泰造（Ｓ19）林正樹（Ｔ8）林雅美（Ｓ23専）

〔ひ〕一栃卓雄（Ｔ14）日置玄益（Ｓ22専）平井百人（Ｓ24専）

〔ふ・へ・ほ〕不破整（Ｓ15）富士山義雄（Ｓ19）福永並也（Ｔ9）藤野虎雄（Ｔ9）別所陽（Ｓ10）朴宗秀（Ｓ35）洞水悟（T14）堀進（Ｓ25専）本郷宏平（Ｓ15）本多明道（Ｔ9）

〔ま〕馬淵健彦（Ｓ23専）牧野友茂（Ｓ19）益川眼（Ｓ23専）増尾精一（Ｔ9）松井滋（Ｓ33）松尾経雄（Ｔ13）松木信一（Ｓ34）松隈利兵衛（Ｔ12）松橋俊一（Ｓ40）松山端（Ｓ12）丸衛治（Ｔ13）丸山茂（Ｓ26鉱）

〔み〕三木浩義（Ｓ29）美甘震八（Ｓ22）水野博通（Ｓ4）満永正（Ｓ40）宮崎安間（T8）宮崎晁（Ｓ22専）宮田稔（Ｔ13）宮村嘉輝（Ｓ23専）

〔む・め・も〕村野井正彌（Ｓ27）目代敏雄（Ｓ22専）本村岩記（Ｔ11）森文彦（Ｔ5）森光男（Ｓ17）森啓二（Ｓ21）森厚雄（S31）森山馨（Ｓ25専）諸井輝雄（Ｓ27）両角親人（Ｓ23）

〔や・ゆ〕安井真十郎（Ｔ4）安原成吾（T9）山内東陸（Ｔ11）山口康男（Ｓ23専）山口達郎（Ｓ31）山崎雅夫（Ｓ29）山崎晴道（Ｓ30）山下督夫（Ｓ19）

〔よ〕横幕直秀（Ｔ９）横山豊昭（Ｓ26鉱）吉井太（Ｓ23）吉尾正明（Ｓ30）吉岡元（Ｓ22）吉瀬浩（Ｔ9）吉田清臣（Ｓ17）吉田豊明（S26鉱）吉田勝（S36）吉永安伸（S40）米波秀雄（Ｓ23）吉原和弘（Ｓ23専）

〔り・ろ・わ〕林巧文（Ｓ37）フレディ・リアンド（Ｓ42）盧遵義（Ｓ16）和田武夫（Ｓ23専）渡辺謙治（Ｓ25）渡辺俊雄（Ｓ36）渡部昭三（Ｓ27）

資源工学会　東京都新宿区西大久保４－１７０　電話（363）3211
早稲田大学理工学部資源工学科内　内線（仮）381　（非買品）